

皆さん、おはようございます。

今日で、長かった２学期が終わります。ところで、今年の２学期はいつから始まったか、覚えてますか？ 通常は８月２７日頃から始まりますが、今年は８月１７日から始めました。例年より１０日ほど、長くなっています。新型コロナの影響で１学期が２か月程度しかなかったのに対して、２学期は倍の約４ヶ月、「長い長い２学期」でした。

それでは、この長い２学期、どんなことがあったか、ふり返ってみましょう。

まず、８月３０日に「旭城祭」がありました。これは、今年度で最も特筆すべき学校行事でした。中高の全生徒はもとより、教職員、保護者が一体となり、大成功のうちに終わりました。当初、今年度の開催は困難ではないかと考えていましたが、旭城祭実行委員や生徒会役員が協力して「コロナ対策をした旭城祭のあり方」について詳細な企画立案を行い、本校の教職員のみならず、県教育委員会をも動かしました。その結果、徹底的なコロナ対策を施し、保護者の入場のみに限定した学校祭が、栃木県の高校で唯一開催されました。翌日の下野新聞でも「密回避、生徒が全力」と大きく取り上げられ、多くの方々から賞賛のお言葉をいただきました。取材に来てくれた下野新聞の記者も感動していました。

実は、本校の取組は栃木県内だけでなく、全国的にも素晴らしい取り組みとして評価されています。兵庫県と毎日新聞社が主催している「ぼうさい甲子園」に、本校のコロナ対策をした旭城祭について、応募したところ、本校の取り組みが選ばれ、「With コロナ賞」という賞を受賞することになりました。明日２４日の毎日新聞の紙面で発表されるそうですが、皆さんには事前にお知らせします。また、本校のＨＰでも紹介したいと思いますので、ぜひ見てください。

高校３年生は、この旭城祭大成功の思い出を胸に、受験勉強へと突入していきました。

続いて、中学生について振り返ります。一度は延期になりましたが、１０月１６日に合唱コンクールを開催することができました。今年は、各クラスが別々に文化会館に移動して合唱を収録しました。完成したDVDを見て、初めて全クラスの合唱を聞くことが出来る、という形式で順位が付くことはありませんでしたが、今年度初めて、クラスが団結する行事ということで、クラスの絆が深まる貴重な体験でした。

また、１１月上旬のスペシャルウィークでは、中３は修学旅行、中２は歌舞伎鑑賞や職業人講話、中１は足尾植樹や藍染め体験など、充実した学習活動を行うことができました。

次は、高校１，２年生についてですが、各学年とも、例年にはない行事やイベントを新たに考え、工夫して実施しました。例えば、１年生は、９月２４日に「英語プレゼンコンテスト」、そして１２月１０日には、自分が興味のある研究領域を選び、バス４台に分乗して「SGH フィールドワーク」を実施しました。例年、課題研究は数名のグループで協働研究を行ってきましたが、今年度は新型コロナの影響で、１，２年ともに個人研究となったことは、皆さんにとって大きな変化でした。

２年生も、１０月６日に「英語スピーチコンテスト」、１１月５日に「パフォーマンスコンテスト」等が開催され、大変な盛り上がりを見せてくれました。

中高ともに、様々な行事やイベントを、生徒自らが企画・運営することを通して、大きな成長や学びがあったことと思います。

さて、こうした学年ごとの行事や取組以外にも、きらりと光る部活動などの活躍がたくさんありました。いくつかをふり返ってみましょう。

運動部で、まず、特筆されるのは、ボート部の大活躍でしょう。先ほど、報告がありましたので重複しますが、9月19・20日に大阪で開催された全国大会で、女子ダブルスカルで出場した高校3年生の木村陽与里（きむら ひより）さん、藤倉怜衣（ふじくら れい）さんが、見事8位に入賞しました。これは、ボート部の創部以来初の快挙といえるもので、本校の歴史の中でも燦然と輝く金字塔です。この快挙を伝えた本校のHPは、9月21日から3日間、連日5000アクセスを越えており、本校の卒業生や地域からも大きな注目を集めました。（ちなみに、本校のHPのアクセス数は、毎日、平均して1000アクセスほどあります。これは、県内の高校ではダントツの1位ということですので、自慢できることではないかと思います。）

また、11月8日に行われた関東大会では、2年生の女子による舵手付きクォドルプルで3位に入賞し、来年3月に静岡県で行われる全国選抜大会の出場を決めました。関東大会を勝ち上がっての全国大会出場は、これも創部以来初、ということで、素晴らしい活躍を見せてくれました。

他にも、先ほど表彰しましたが、ラグビー部の県大会3位入賞、陸上競技部の男子4×100mリレー県新人戦2位そして関東大会出場、テニス部の男子シングルス県新人戦3位、また、中学生では、テニス部の関東大会出場など、心に残る皆さんの活躍がたくさんありました。

一方、文化面では、先ほどの壮行会でも紹介しましたが、SGHクラブ「ディベート班」が、12月27、28日に行われる「全国高校生英語ディベート大会」への出場を決めたことが、特筆すべきことです。また、つい先日、12月19・20日に「全国高校即興型ディベート大会」という地方予選のない全国大会に参加し、全国から強豪校64校が参加する中、5位入賞する快挙も成し遂げました。さらに、全国で8名しか選ばれないベストディベーター賞に、2年生の新井優平君が選出されました。もはや、本校の英語ディベートは全国でも一目置かれる存在になっています。

また、全国大会への出場を決めた囲碁将棋部の竹熊柊君の活躍もめざましく、まさに破竹の勢いを感じさせてくれました。

さらに、科学部は、12月12日にオンラインで行われた高校生総合文化祭の県予選では、見事に優勝し、来年度、和歌山県で開催される総文祭への出場権をを獲得しました。

このように、コロナ禍という逆境をものともせず、文武両面に渡って、快進撃を続ける本校生のすごさには、本当に勇気づけられました。

長い2学期の皆さんの活躍の振り返りも長くなってしまいましたが、今度は、皆さん一人一人にとって、この1年がどうだったのかを、みんなで振り返ってみたいと思います。

12月14日、年末恒例の「今年の漢字」が京都・清水寺で発表になりました。今年一年の世相を表す漢字一字として、「密」が第1位となりました。同じく12月1日に発表された「新語・流行語大賞」でも、今年は「3密」が選ばれたことと通じるものがあると思いました。

確かに「今年の漢字」はその年の世相を表すものですが、私たち一人一人にとっての1年を「密」という一文字で総括することはできないと思います。

先週、附属中の1年生が、自分にとっての「今年の漢字」とその理由を考えてくれたので、その結果を皆さんにも紹介したいと思います。

中学1年生が選んだ漢字は、全部で57種ありました。予想以上にたくさん出ていました。多くの生徒が自分だけの漢字を選んだ、ということでもあります。その中で、10人以上が選んだ漢字が1つありました。「新」（新しい、という字です）という漢字でした。

「新」を選んだ理由は、「新しいことを学び、新しいことを体験したから」、「新しい発見、新しい仲間、新しい出会い、新しい驚き

があった」、「新しいものに挑んだから」などがありました。

そして2位は、変化を表す「変」という漢字でした。

「変」を選んだ理由としては、「周りの状況が変化するとともに、自分も変化していきたいから」、「人前で話せるように変われたから」などがありました。

この結果を見て、皆さんは、どう思いますか？ 私は、コロナ禍というネガティブな状況の中でも、前向きに、自分が成長したり、変わったりしたことを振り返ることができるんだなと感心しました。おそらく、他の学年の生徒であっても、共通するものはあるのではないかと思います。

ところで、1学期の始業式の式辞で「心は後からついてくる」と言ったことを覚えてますか。例えば、特段うれしくなくとも、「うれしい」と口に出して言うと、そのうちに何となく嬉しくなってきたり、誰かに何かをしてもらったら、とりあえず「ありがとう」と言ってみると、その時は、たいしてありがたいと思っていなくとも、「ありがとう」と言うことによって、そのうちに不思議とありがたい気持ちになってくる、という話でした。

このことを今、また考えてみましょう。筆記用具は用意できてるでしょうか？

2学期あるいは今年1年を振り返ってみて、自分が体験した楽しかったことやうれしかったことは何だったでしょうか。ちょっと、思いだしてみてください。あるいは、大変だったこと、嫌だったことの方が多かったとしたら、そこから何を学んだか、自分がどう変わったか、を考えてみましょう。考えたら、手元にあるノートなどの紙切れに、そのことを書いてみてください。

それができた人は、今度は「今年の漢字」のように、漢字一文字で、その気持ちを言語化してみましょう。できましたか？

こんな短時間では無理、と言われるかもしれませんが、後でもかまいません。そして、なぜ、その漢字なのか、理由も書いてみてください。

こんなふうに、記憶を整理し、言語化、再定義するとともに、書くという行動を起こすことで、記憶そのものを書き換えることができるのです。その結果、前向きな「心」が後からついてきてくれるはずです。

さて、あなたは、何という文字（漢字）を書きましたか？

ちなみに、私は、「幸（こう、しあわせ）」という漢字を書きました。今年は、臨時休業や行事の中止など、ネガティブなことがたくさんありましたが、実は、そんなに悪いことばかりではなかったと思っています。その分、本校の5年後の姿を先生方でじっくりと考えることができたからです。

本校は、現在、県内で唯一のSGHとして、大きな成果を上げています。しかし、SGHの指定期間は5年間で、今年度が最終年度となっています。つまり、来年度以降、本校はSGHを名乗ることはできなくなります。そこで、コロナ禍の4月当初より、本校が、生徒のみならず、先生方や保護者、さらには地域の人達にとっても、「幸せな学校」、入って良かったと思える学校にすることを目指して、多くの議論を重ねてきました。先生方だけでなく、中高の生徒会役員や保護者の代表からも意見を聞きました。

その結果、皆さんが入って良かったと思える「幸せな学校」となることを目指し、来年度以降は、SGH校としての成果を踏まえ、「探究力」と「人間力」の育成を2つの大きな柱とすることにしました。そして、新たに、地域の課題から世界を見据える「SANO グローカル」という構想を打ち立てました。「SANO グローカル」ぜひ、覚えておいてください。ちなみに、グローカルは、グローバルとローカルを合わせた造語です。

つまり、来年度、SGHでなくなっても、本校は教育目標に掲げてあるとおり、「国際人として活躍できる真のリーダー」の育成を目指し、新たなステージに突入します。SGHクラブも、おそらく、仮称ですが、例えば、「SANO グローカル クラブ」や「SANO G クラブ」、「SG クラブ」、「SGC」といった名称で活動すること

になるのではないかと思います。そして、皆さんと一緒に、入って良かったと思える「幸せな学校」にしていきたいと、校長として考えています。

なお、「SANO グローカル」の具体的な内容については、来年度までには決定し、4月には皆さんに説明する予定です。



さて、明日からいよいよ冬休みです。

コロナ禍の中ではありますが、自由な時間を有効に活用し、幅広い好奇心を持ち、豊かな心を磨けるよう心がけてみてください。そして3年生はいよいよ大学入学共通テストです。いままでやってきたことを信じ、力を発揮してください。

今年はクリスマス前の終業式となりました。少しだけ長めの冬休みとなりますが、皆さんの冬休みが有意義なものになることを期待し、そして何よりも健康で、元気に1月8日、全員がここで始業式を迎えられることを願って、校長からの式辞とします。